

Course number		U-LAS62 10006 PJ17					
Course title (and course title in English)	森里海連環学実習Ⅳ：沿岸域生態系に与える陸・川・人の影響 Field Study on Connectivity of Hills, Humans and Oceans IV :Effects on coastal ecosystem from land, river and human activity			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Field Science Education and Research Center Professor,ASAKURA AKIRA Field Science Education and Research Center Professor,SHIMOMURA MICHITAKA Field Science Education and Research Center Assistant Professor,YAMATO SHIGEYUKI Field Science Education and Research Center Associate Professor,NAKANO TOMOYUKI Field Science Education and Research Center Assistant Professor,GOTO Ryutaro Graduate School of Science Professor,SOTA TEIJI	
Group	Interdisciplinary Sciences		Field(Classification)		Studies on Connectivity of Hills, Humans and Oceans		
Language of instruction	Japanese		Old group	Group B		Number of credits	2
Hours	60	Class style	Practical training (Face-to-face course)		Year/semesters	2024・Intensive, Second semester	
Days and periods	Intensive March 25-30 (6 days and 5 nights)(It might be shortened.)		Target year	All students		Eligible students	For all majors
[Overview and purpose of the course]							
<p>沿岸域とは海岸線を挟んで海と陸とがせめぎ合っている場所であり、そこに住む海の生物が形作る生態系には、陸域やそこに住む人間、また山から注ぎ込む川の影響が顕著である。本授業の拠点となる瀬戸臨海実験所は紀伊半島南西部に位置し、黒潮の影響から海洋生物の多様性が非常に高い。特に実験所北側に広がる田辺湾は、様々な底質環境が見られると共に、大小いくつかの川が注ぎ、田辺市・白浜町という小都市が面している。</p> <p>本実習では、特に無脊椎動物に着目して、河川の上流、中流、河口域（干潟）、外洋に面した岩礁域での調査・プランクトンネット採集・ドレッジ採集等、田辺湾の様々な環境から様々な手法による採集を行う。そして、そこに生息する生物の多様性について理解を深め、それらが形成する沿岸域生態系に与える陸と川と人の影響について、実習を通して学ぶ。</p>							
[Course objectives]							
<p>陸・川・人がその生態系に与える影響について正確で幅広い知識を獲得するとともに、学んだ内容を自身の専攻に関連づけて理解する。</p>							
[Course schedule and contents)]							
<p>2021年3月25～30日（期間短縮の可能性有り）に、和歌山県西牟婁郡白浜町の瀬戸臨海実験所に宿泊しながら行う。</p> <p>期間中、河川の上流、中流、河口域（干潟）、外洋に面した岩礁域での調査、実習船「ヤンチナ」を使ったプランクトンネットによるプランクトン採集及びドレッジによるベントス採集など、田辺湾沿岸域の様々な海洋環境から生物の採集を試みるとともに、水質等の無機的环境の測定を行う。</p> <p>採集された生物の同定結果や環境測定結果を基に、調査各地点間や他海域との比較等を通して、田辺湾沿岸域生態系に見られる陸域環境や人間生活の影響を抽出していく。</p>							

Continue to 森里海連環学実習Ⅳ：沿岸域生態系に与える陸・川・人の影響(2)							

[Course requirements]

理系・文系は問わない。高等学校での生物の履修も必須とはしない。川、河口、海という環境や実際の生物に対する関心を持つ学生を望む。

実際にフィールドに出た際の採集や作業があるので、何かしらのハンディキャップによる不安がある場合は、ガイダンス時に相談する事。

[Evaluation methods and policy]

実習の受講姿勢（20点）と、実習期間中課せられるレポートの内容（80点）を総合して評価する。

[Textbooks]

実習中に、適宜プリントを配布する。

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

（Related URL）

<http://www.seto.kais.kyoto-u.ac.jp>(瀬戸臨海実験所ホームページ)

<http://setoblo.blogspot.com/search/label/%E8%87%A8%E6%B5%B7%E5%AE%9F%E7%BF%92%20%E6%B2%BF%E5%B2%B8%E5%9F%9F%E7%94%9F%E6%85%8B%E7%B3%BB%E3%80%81%E6%A3%AE%E9%87%8C%E6%B5%B7IV>(これまでの、この実習の様子)

<http://setoblo.blogspot.com/>(公式ブログ：瀬戸臨海実験所)

[Study outside of class (preparation and review)]

普段より水の生き物やその生態系に関心を持ち、その環境や人の生活がそれらに与える影響を考へるようにすると、この実習の意図を理解したり、得られた結果を解釈したりすることが容易になる。

個別の結果を並べるだけでは全体の把握は出来ないので、得られた結果について横断的に解釈すると共に、異なる考えや発想を持つ他の実習生と積極的に議論を進めて欲しい。

[Other information (office hours, etc.)]

大学からの新型コロナウイルス感染防止に関する警戒レベルが、現状の「1」が継続していれば、感染予防策を実施の上、対面、直接の実習として行う予定です。その場合、以下ようになります。

1月下旬にガイダンス（オンライン）を行うが、受講希望者数が定員(3～6名予定)を超える場合、ここで抽選による選抜を行うので、受講希望者は必ず出席すること。なお例年、実習の開催期間が採点報告日より後になり、成績報告が他の後期科目より遅れてしまっている。そのため、卒業に必要な単位としては成績が間に合わない可能性があることに要注意。

学生教育研究災害傷害保険には、必ず加入すること。旅費・滞在費は自己負担。

大学の警戒レベルに変更が生じた時には、それに応じて内容も変えます。履修者には、そのたびに連絡をします。

新型コロナの感染拡大の状況次第では実習の実施は中止となる可能性がございます。また、現在、瀬戸臨海実験所は全面改修中であり、実習スペースが手狭であること、宿泊棟の一部が使用できないことから受入人数を制限しています。そのため、本年度の履修にこだわる必要がない場合は、次年度以降の履修をお勧めします。